

Science Fiction

I recently read a book by the name of *Project Hail Mary*. It is what is called a hard sci-fi, meaning that the author tries to adhere closely to the science and engineering of the time it was written and bases the story on brand new options from the same set of principles. Like *The Martian* and *Artemis* this book is written by Andy Weir. Definitely a good choice for science fiction.

The story follows the main character (Ryland Grace) as he attempts to figure out how to stop the sun from dying. Alone on a spaceship he is humanities last hope at averting climate change. Well, the planet freezing instead of burning. The sun is going out and the planet is losing heat, which means that the blanket of warmth that greenhouse gas emissions provided could actually act like an insulator against the cold. Of course, that only works so long as the sun doesn't actually die.

This interstellar adventure follows Ryland as he investigates how to keep the sun healthy so that humanity can survive. He and his team are entrusted with the fate of humanity. And maybe something else. But that is for those who don't want the story to be spoiled. All I know is that the ending left me pondering: Is this really the future we are hoping for? A random chance among random chances where so much can go wrong? An uncertain outcome that might as well have fallen out of the sky?

In English, a "Hail Mary play" comes from American football, a pass so long that a "Hail Mary" prayer could be whispered as everyone waits to see where the ball lands. A kind of pass made out of desperation. From one corner of the field to the opposite end. I wonder if that was Weir's intent with the book. "Americans can't be so complacent as to think a miracle will happen to save us from climate change, from the heat. Can they?"



ALT
Leonard
レナド

英語で
あれこれ
5

サイエンス・フィクション

最近、『プロジェクト・ヘイル・メアリー』という本を読みました。この本はいわゆる「ハードSF」と呼ばれる作品です。「ハードSF」とは、作家が、書いた当時の科学技術にできるだけ忠実に従い、同じ科学的原理由来の最新の可能なアイデアを物語のベースに描いている作品を指します。『火星の人』や『アルテミス』と同様に、この本もアンディ・ウィアーの作品です。SFを選ぶなら、間違いなくおすすめの一冊です。

物語は、主人公ライランド・グレイスが、太陽の消滅を食い止める方法を解明しようとする姿を描いています。宇宙船の中で一人きりの彼は、気候変動を防ぐための人類最後の希望です。さて、地球は燃えるのではなく、凍りついています。太陽は消えかかり、地球は熱を失いつつあります。この熱は、これまで温暖化の原因とされてきた温室効果ガスが、今度は地球を冷やさないように守る「断熱材」のような役割を果たすのです。もちろん、それも太陽が完全に消滅しない限りの話です。

この宇宙を舞台にした物語は、人類が生き延びるために、消えゆく太陽を救う方法を探るライランド・グレイスの挑戦を描いています。彼とチームは、人類の運命を託されます。そして、もしかすると、何かそれ以外の運命も。でも、その先はネタバレになるので、ここでは触れません。私が言えるのは、この物語の結末を読んだあと、「次に挙げる未来は本当に私たちが望んでいる未来なのだろうか。」と考えさせられたということです。大抵は上手く行かないような、行き当たりばったりの偶然中の偶然のような未来。運任せで不確かな結末になる未来。

英語の「Hail Mary play」という言葉は、アメリカンフットボールから来ています。それは、ボールがどこに落ちるのかをみんなが待つ間に、「Hail Mary (Ave Mariaへの祈り)」を小声で唱えるほど、遠くへ投げられるパスのことです。それは、もう他に方法がなく、最後の望みをかけて投げられる一種のパスです。フィールドの一方の端から、反対側の端まで投げるようなものです。私は、それこそが、ウィアーがこの本に込めた意図だったのではないかと思います。

「アメリカ人は、気候変動や暑さから私たちを救ってくれる奇跡が起こると思うほど、気にしないはずはありませんよね。」



としょしつだより

秋のはじまり、
本とひと休み。

◇9月新着図書 一般書 27冊 児童書 15冊

9月16日(水)の新着図書の展開は42冊です。

※到着状況により遅れがでる場合があります。

予めご了承ください。

図書室休室日のお知らせ

9月							10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4					1	2	3
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31

は休室日 ※9/22(火)は国民の休日なので開館します。

開室時間：午前8時30分～午後5時15分



変化の激しい時代、「これから、どう働いていけばいいのだろう?」と迷うことはありませんか。芸人、絵本作家、映画製作など、さまざまな分野で挑戦を続ける西野亮廣さんが、自身の経験から得た学びをもとに、これからの働き方を考える一冊です。お金や投資、チームづくり、集客、挑戦するために必要な考え方などを、実例を交えながら紹介しています。誰かの正解をそのまま追いかけるのではなく、自分はどこへ向かいたいのか。迷ったときに進む方向を照らしてくれる「北極星」を、自分の中に見つけるきっかけになるかもしれません。

◇一般図書

著／西野亮廣

◇児童図書

きみは、てき?

文／内田麟太郎

絵／ひぐちともこ

英訳／アーサー・ビナード

のどかな村に響く、小さな爆音。兵士は「敵」に向かって銃を撃ちます。けれど、その相手にも家族がいて、大切な人がいて、夢があったとしたら――。『きみは、てき?』は、「敵」とは誰なのか、戦争とは何を奪うのかを静かに問いかける絵本です。短い言葉と印象的な絵が、一人ひとりの命の重さをまっすぐに伝えます。命令されたら従うのか、平和とは何なのか。子どもにも大人にも、簡単には答えのない問いを残す一冊です。日本語と英語が併記され、世界へ向けた非戦への願いも込められています。



本の購入リクエスト・リサイクルについて

図書室では、利用者から本の購入リクエストを受け付けております。

寄贈本に関しては、広野町ゆかりの図書を収集します。一般図書は可能な限り新刊本を収集します。

詳しくはスタッフまでお尋ねください。

一般 色の本棚展示

9月の
企画展示

児童図書 お月見特集



※システム故障につきランキング無し

問 広野町図書室 ☎0240-27-3211 e-mail : hirono-library@abelia.ocn.ne.jp

広野文芸欄

季節を詠む 時流を読む

広野町葉月句会 猪狩行々子選

浅川 幸子

晩夏光今が過ぎゆく砂時計

眠れぬと母のつぶやく夜の秋

遠藤 恵美子

砂浜の足裏に刺さる極暑かな

梅庭潮風通しもう一夜

塩 史子

千し上げた梅を茶菓子に一休み

原発事故十五年目の草いきれ

郁 子

草刈りの後やすつくと竹二本

振花のみんなな右巻き姉妹かも

暁 月

少年の漲る息吹雲の峰

同級会古稀の祝いと暑気払

遠藤 健太郎

三度目の盆灯籠の光かな

スポンサー名の読み上げ多し大花火

令 子

届きたる手紙の美文字秋の風

漁港の正面盆花溢れる供養塔

会員募集のお知らせ

広野町俳句会では、会員を募集しています。俳句に興味のある方大歓迎です。俳句を通してみなさんと交流してみませんか。詳しくは、下の連絡先までお問い合わせください。

問 広野町俳句会 ☎090-7063-1676